

デロイトトーマツグループ  
ブレグジットレスポンスセンター

羽生田 慶介氏

英国のE U（欧州連合）離脱は、TPP（環太平洋経済連携協定）と並ぶ大型FTA（自由貿易協定）として妥結を急ぐ日本とE UとのEPA（経済連携協定）交渉にも影響を与える。日本とE UとのEPAは2013年に交渉開始。5月の首脳会合で年内の大筋合意を目指すことで一致したが、交渉は正念場を迎えている。

日本はE Uに乘用车で10%、電子機器で最大14%の関税削減などを求めてきた。一方、E Uは日本にチーズ、ワインなどの関税削減や、自動車、化学品などの規制や安全基準の見直しを求めてきたが、日本側の譲歩が十分でないと思われる。

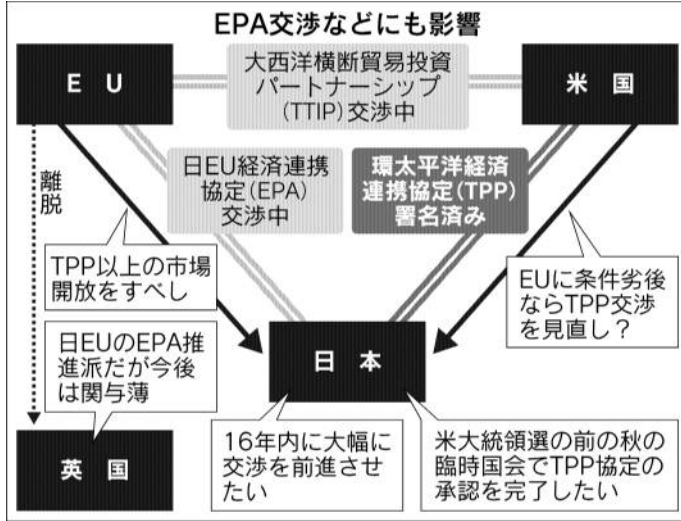
E Uは先進経済圏同士のエPAに対し、TPP

よりも更にハイレベルな自由化を要求している。だがE Uとの交渉で日本がいま新たな農産品分野の譲歩カードを切ることは、秋の臨時国会で目玉となるTPP協定の議論

に波及する。もし日本がTPPで米  
国に与えた条件よりも大  
幅に良い譲歩をE Uに行  
えば、まった中の米大  
統領選でクリントン、ト  
ランプ両候補が有権者へ  
アピールするTPP見直  
しの主張に拍車がかか  
る。オーストラリアも黙

っていないだろう。  
この難局に重なったの  
が英国のE U離脱だ。英  
国は自由貿易を志向し、  
日本とE UのEPA交渉  
を積極的に推進する筆頭  
格だった。E U離脱実現  
までは対日交渉に関与す  
る見通しだが、発言力は  
確実に低下する。

## 日E U交渉にも影響



年内に妥結を急ぐもう  
一つの理由が政府のリソ  
ース問題だ。英国とE U  
の離脱交渉は来年から本  
格化する。離脱協定と並  
行して離脱後に備えた通  
商協定を交渉する場合、  
欧州委員会貿易総局の多  
くの交渉官が英国との交  
渉に駆り出される可能性  
が高い。

E Uは米国ともTTIP  
（環太平洋貿易投資協  
定）交渉を進めており、  
日本との交渉の要員が十  
分確保されるかは不透明  
だ。シナリオ次第では来  
年早々に各社のE U拠点  
戦略見直しが迫られる。